

えりも町鳥獣被害防止計画新旧対照表

新				旧						
1.対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域				1.対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域						
対象鳥獣		エゾシカ、ヒグマ、キツネ、 タヌキ 、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ		対象鳥獣		エゾシカ、ヒグマ、キツネ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ				
2.鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針 (1)被害の現状(令和2年度)				2.鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針 (1)被害の現状(令和2年度)						
鳥獣の種類		被害の現状		鳥獣の種類		被害の現状				
	品目	被害額(千円)	被害面積(ha)		品目	被害額(千円)	被害面積(ha)			
エゾシカ	牧草	11,581	196	エゾシカ	牧草	11,581	196			
	ロールサイレージ	2,137	24		ヒグマ	ロールサイレージ	2,137	24		
ヒグマ	ふ化場ほか	—	—	ヒグマ		ふ化場ほか	—	—		
キツネ	家庭菜園ほか	—	—	キツネ	家庭菜園ほか	—	—			
タヌキ	飼料ほか	—	—	カラス類	牧草(剥離)ほか	—	—			
カラス類	牧草(剥離)ほか	—	—	アライグマ	家庭菜園ほか	—	—			
アライグマ	家庭菜園ほか	—	—	ゼニガタアザラシ	定置網のサケ(食害)	18,600	—			
ゼニガタアザラシ	定置網のサケ(食害)	18,600	—		タコ空釣縄漁(食害)	606	—			
	タコ空釣縄漁(食害)	606	—		合計	32,924	220			
	合計	32,924	220							
(2)被害の傾向				(2)被害の傾向						
エゾシカ	平成10年度以降に牧草への農業被害が発生。個体数の増加に伴い被害も増加傾向にある。侵入防止柵のネットが毎年破られており、被害箇所及び修繕費用が増加している。また、昆布干場での排泄物による衛生面の被害が増加傾向にある。			エゾシカ	平成10年度以降に牧草への農業被害が発生。個体数の増加に伴い被害も増加傾向にある。侵入防止柵のネットが毎年破られており、被害箇所及び修繕費用が増加している。また、昆布干場での排泄物による衛生面の被害が増加傾向にある。					
ヒグマ	若い個体による、人の生活圏内(民家や通学路周辺、牧場等)での出没が増加傾向であり、地域住民をはじめ、農業関係者などに被害が及ぶ可能性がある。			ヒグマ	若い個体による、人の生活圏内(民家や通学路周辺、牧場等)での出没が増加傾向であり、地域住民をはじめ、農業関係者などに被害が及ぶ可能性がある。					
キツネ	人の生活圏や昆布干場へ侵入し、干し魚等の食害、排泄物による衛生面の被害が増加傾向にある。			キツネ	人の生活圏や昆布干場へ侵入し、干し魚等の食害、排泄物による衛生面の被害が増加傾向にある。					
タヌキ	牛舎や家庭菜園等へ侵入し飼料や干し魚、収穫物の食害が増加傾向にある。			カラス類	牛舎へ侵入し飼料等の食害、排泄物による衛生面の被害がある。また、牧草を剥離しコガネムシの幼虫を食べ、牧草地を傷める被害も増加している。					
カラス類	牛舎へ侵入し飼料等の食害、排泄物による衛生面の被害がある。また、牧草を剥離しコガネムシの幼虫を食べ、牧草地を傷める被害も増加している。			アライグマ	町内全域でアライグマが生息しており、牛舎や家庭菜園等へ侵入し、飼料や収穫物の食害が増加傾向にある。					
アライグマ	町内全域でアライグマが生息しており、牛舎や家庭菜園等へ侵入し、飼料や収穫物の食害が増加傾向にある。			ゼニガタアザラシ	近年、顕在化しており被害数の増減もあり、被害率は横ばいである。					
ゼニガタアザラシ	近年、顕在化しており被害数の増減もあり、被害率は横ばいである。									
(3)被害の軽減目標				(3)被害の軽減目標						
指 標	現状値(令和2年度)		目標値(令和6年度)		現状値と目標値の比較	現状値(令和2年度)		目標値(令和6年度)		現状値と目標値の比較
	被害金額、被害面積等		被害金額、被害面積等			被害金額、被害面積等		被害金額、被害面積等		
エゾシカ	被害額	13,718	被害額	10,974	20%減	被害額	13,718	被害額	10,974	20%減
	被害面積	220	被害面積	176		被害面積	220	被害面積	176	
ヒグマ	被害額	—	被害額	—		被害額	—	被害額	—	
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
キツネ	被害額	—	被害額	—		被害額	—	被害額	—	
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
タヌキ	被害額	—	被害額	—		被害額	—	被害額	—	
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
カラス類	被害額	—	被害額	—		被害額	—	被害額	—	
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
アライグマ	被害額	—	被害額	—		被害額	—	被害額	—	
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
ゼニガタアザラシ	被害額	19,206	被害額	15,364	20%減	被害額	19,206	被害額	15,364	20%減
	被害面積	—	被害面積	—		被害面積	—	被害面積	—	
合 計	被害額	32,924	被害額	26,338	20%減	被害額	32,924	被害額	26,338	20%減
	被害面積	220	被害面積	176		被害面積	220	被害面積	176	

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課題
捕獲等に 関する取組	<p>地元猟友会の協力を得て銃器及びわなによる有害鳥獣の捕獲を実施し、町費、補助金を活用して捕獲費用を支出している。</p> <p>エゾシカ ・銃器による捕獲 ・くくりわなによる捕獲</p> <p>ヒグマ ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>キツネ ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>タヌキ ・はこわなによる捕獲</p> <p>カラス類 ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>アライグマ ・はこわなによる捕獲</p> <p>ゼニガタアザラシ ・漁網 →音波忌避</p>	<p>エゾシカ 牧場や国有林等の捕獲困難または禁止区域で出沒（生息）しているエゾシカの捕獲に苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得に向けての取組が必要。</p> <p>地元猟友会（捕獲従事者）の高齢化及び担い手が不足しているため、人材確保と育成が必要。</p> <p>ヒグマ 地元従事者の高齢化及び担い手が不足しているため、人材確保と育成</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得の促進が必要。</p> <p>キツネ 民家周辺や牛舎等では銃器を使用できないため、捕獲に苦慮している。また、はこわなを設置しても、捕獲できないことも多くあり、捕獲に苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得に向けての取組が必要。</p> <p>タヌキ 民家周辺や牛舎等では銃器を使用できないため、捕獲に苦慮している。</p> <p>カラス類 民家周辺や牛舎等では銃器を使用できないため、捕獲に苦慮している。</p> <p>巢の撤去は、設置個所が高くて対処できないこともあり、苦慮している。</p> <p>アライグマ はこわなを設置しても、捕獲できないことも多くあり、苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得の促進が必要。</p> <p>ゼニガタアザラシ 平成27年に絶滅危惧種から準絶滅危惧種へ引き下げられたことにより、計画的な捕獲による個体群管理が可能となったが、当町の重要な観光資源でもあることから、漁業被害の軽減と両立させた取り組みを行い、共存・共栄を図っていく必要がある。</p>
防護等に 関する取組	<p>エゾシカ、ヒグマ、アライグマ、キツネ、タヌキ ・電気柵設置 ・ネットフェンスの設置</p>	<p>エゾシカ、ヒグマ、アライグマ、キツネ、タヌキ エゾシカ等により、例年被害があり、修繕しても、すぐに破られることが多く、電気柵及びネットフェンスの維持管理費用負担が大きい。</p>
息循環管理 その他の取組	<p>ヒグマ 啓発普及及び注意喚起 ・町内広報誌での周知 ・町内防災無線での周知 ・公共施設での周知 ・注意喚起看板の設置</p>	<p>ヒグマ 近年、人の生活圏での出沒及び目撃情報が増加しており、人身被害が懸念されるため、関係機関及び地域との連携が必要。</p>

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課題
捕獲等に 関する取組	<p>地元猟友会の協力を得て銃器及びわなによる有害鳥獣の捕獲を実施し、町費、補助金を活用して捕獲費用を支出している。</p> <p>エゾシカ ・銃器による捕獲 ・くくりわなによる捕獲</p> <p>ヒグマ ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>キツネ ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>カラス類 ・銃器による捕獲 ・はこわなによる捕獲</p> <p>アライグマ ・はこわなによる捕獲</p> <p>ゼニガタアザラシ ・漁網 ・音波忌避</p>	<p>エゾシカ 牧場や国有林等の捕獲困難または禁止区域で出沒（生息）しているエゾシカの捕獲に苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得に向けての取組が必要。</p> <p>地元猟友会（捕獲従事者）の高齢化及び担い手が不足しているため、人材確保と育成が必要。</p> <p>ヒグマ 地元従事者の高齢化及び担い手が不足しているため、人材確保と育成</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得の促進が必要。</p> <p>キツネ 民家周辺や牛舎等では銃器を使用できないため、捕獲に苦慮している。また、はこわなを設置しても、捕獲できないことも多くあり、捕獲に苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得に向けての取組が必要。</p> <p>カラス類 民家周辺や牛舎等では銃器を使用できないため、捕獲に苦慮している。</p> <p>巢の撤去は、設置個所が高くて対処できないこともあり、苦慮している。</p> <p>アライグマ はこわなを設置しても、捕獲できないことも多くあり、苦慮している。</p> <p>わなの免許取得者が少ないため、取得の促進が必要。</p> <p>ゼニガタアザラシ 平成27年に絶滅危惧種から準絶滅危惧種へ引き下げられたことにより、計画的な捕獲による個体群管理が可能となったが、当町の重要な観光資源でもあることから、漁業被害の軽減と両立させた取り組みを行い、共存・共栄を図っていく必要がある。</p>
防護等に 関する取組	<p>エゾシカ、ヒグマ、アライグマ、キツネ ・電気柵設置 ・ネットフェンスの設置</p>	<p>エゾシカ、ヒグマ、アライグマ、キツネ エゾシカ等により、例年被害があり、修繕しても、すぐに破られることが多く、電気柵及びネットフェンスの維持管理費用負担が大きい。</p>
息循環管理 その他の取組	<p>ヒグマ 啓発普及及び注意喚起 ・町内広報誌での周知 ・町内防災無線での周知 ・公共施設での周知 ・注意喚起看板の設置</p>	<p>ヒグマ 近年、人の生活圏での出沒及び目撃情報が増加しており、人身被害が懸念されるため、関係機関及び地域との連携が必要。</p>

(5) 今後の取組方針

エゾシカ	北海道エゾシカ管理計画（第6期）に基づき、「適正な個体数管理」と「捕獲個体の有効活用」を推進するために、有害鳥獣に係る補助金と町費で捕獲事業に係る財源を確保し、「メス」を優先とした捕獲活動を実施する。また、捕獲した個体については、「地域資源」として有効活用するために、地元猟友会へ捕獲後の処理方法として、「施設搬入」を推奨することを周知していき、搬入された個体はジビエやペットフード等への加工に努める。
ヒグマ	北海道ヒグマ管理計画（第2期）に基づき、「人身事故の防止、人里への出没抑制及び農業被害軽減」を推進するため、町内に出没した「問題個体」に対し、地元猟友会を中心に、関係機関と連携し、見回り警戒や注意喚起看板による被害防止及び予防、出没状況に合わせて、はこわなを設置して速やかな捕獲に努める。
キツネ、タヌキ、カラス類	人の生活圏や牛舎等へ侵入し、飼料等の食害、排泄物による衛生面の被害が懸念さ
アライグマ	えりも町におけるアライグマ防除実施計画に基づき、生態系に係る被害の防止を推進するため、生息及び被害状況等を把握し、被害防止及び生息域の拡大を防止し、町内への侵入・定着の阻止に努める。
ゼニガタアザラシ	えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画に基づき、地域におけるゼニガタアザラシ個体群と沿岸漁業を含めた地域社会との将来にわたる共存を推進するため、漁網の改良及びモニタリング等を実施しながら、適正な個体数調整に努める。

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項
(2) その他捕獲の体制に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
4	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	地元猟友会の活動支援として、ハンター保険料及び運営補助。
5	同上	同上
6	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、タヌキ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	同上

(5) 今後の取組方針

エゾシカ	北海道エゾシカ管理計画（第6期）に基づき、「適正な個体数管理」と「捕獲個体の有効活用」を推進するために、有害鳥獣に係る補助金と町費で捕獲事業に係る財源を確保し、「メス」を優先とした捕獲活動を実施する。また、捕獲した個体については、「地域資源」として有効活用するために、地元猟友会へ捕獲後の処理方法として、「施設搬入」を推奨することを周知していき、搬入された個体はジビエやペットフード等への加工に努める。
ヒグマ	北海道ヒグマ管理計画（第2期）に基づき、「人身事故の防止、人里への出没抑制及び農業被害軽減」を推進するため、町内に出没した「問題個体」に対し、地元猟友会を中心に、関係機関と連携し、見回り警戒や注意喚起看板による被害防止及び予防、出没状況に合わせて、はこわなを設置して速やかな捕獲に努める。
キツネ、カラス類	人の生活圏や牛舎等へ侵入し、飼料等の食害、排泄物による衛生面の被害が懸念され
アライグマ	えりも町におけるアライグマ防除実施計画に基づき、生態系に係る被害の防止を推進するため、生息及び被害状況等を把握し、被害防止及び生息域の拡大を防止し、町内への侵入・定着の阻止に努める。
ゼニガタアザラシ	えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画に基づき、地域におけるゼニガタアザラシ個体群と沿岸漁業を含めた地域社会との将来にわたる共存を推進するため、漁網の改良及びモニタリング等を実施しながら、適正な個体数調整に努める。

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項
(2) その他捕獲の体制に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
4	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	地元猟友会の活動支援として、ハンター保険料及び運営補助。
5	同上	同上
6	同上	同上

(3)対象鳥獣の捕獲計画

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	4年度	5年度	6年度
エゾシカ	2,500	2,500	2,500
ヒグマ	5	10	10
キツネ	30	30	30
タヌキ	—	—	50
カラス類	300	300	300
アライグマ	30	150	150
ゼニガタアザラシ	—	—	—

捕獲等の取組内容	
<p>捕獲予定場所は、町内一円。 捕獲手段は、銃器とわなによる捕獲。</p>	
エゾシカ：	銃器、くくりわな（通年）
ヒグマ：	銃器、はこわな（通年、ただし冬眠期間である1月から2月を除く）
キツネ：	銃器、はこわな（通年）
タヌキ：	銃器、はこわな（通年）
カラス類：	銃器、手捕り（通年、ただし狩猟期間は除く）
アライグマ：	はこわな（通年）
ゼニガタアザラシ：	銃器、漁網、音波忌避装置等（年度ごとに実施した内容をモニタリング等をして、次年度に改良した漁網や捕獲方法を実施する）

5. 生息環境管理その他被害防止実施欄に関する事項

年度	対象鳥獣	取組内容
4	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	対象鳥獣の出没や目撃情報に応じて、関係団体と連携して対応に努める。また、対象鳥獣ごとに策定されている各計画に基づき、適切な捕獲活動に努める。 啓発普及及び注意喚起 ・町内広報誌での周知 ・町内防災無線での周知 ・公共施設での周知 ・注意喚起看板の設置 ・関係機関との情報共有 捕獲した対象鳥獣の適正な ・従事者への周知 ・エゾシカ捕獲後として、施設搬入の推奨
5	同上	同上
6	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、タヌキ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	同上

(3)対象鳥獣の捕獲計画

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	4年度	5年度	6年度
エゾシカ	2,500	2,500	2,500
ヒグマ	5	10	10
キツネ	30	30	30
カラス類	300	300	300
アライグマ	30	100	100
ゼニガタアザラシ	—	—	—

捕獲等の取組内容	
<p>捕獲予定場所は、町内一円。 捕獲手段は、銃器とわなによる捕獲。</p>	
エゾシカ：	銃器、くくりわな（通年）
ヒグマ：	銃器、はこわな（通年、ただし冬眠期間である1月から2月を除く）
キツネ：	銃器、はこわな（通年）
カラス類：	銃器、手捕り（通年、ただし狩猟期間は除く）
アライグマ：	はこわな（通年）
ゼニガタアザラシ：	銃器、漁網、音波忌避装置等（年度ごとに実施した内容をモニタリング等をして、次年度に改良した漁網や捕獲方法を実施する）

5. 生息環境管理その他被害防止実施欄に関する事項

年度	対象鳥獣	取組内容
4	エゾシカ、ヒグマ、キツネ、カラス類、アライグマ、ゼニガタアザラシ	対象鳥獣の出没や目撃情報に応じて、関係団体と連携して対応に努める。また、対象鳥獣ごとに策定されている各計画に基づき、適切な捕獲活動に努める。 啓発普及及び注意喚起 ・町内広報誌での周知 ・町内防災無線での周知 ・公共施設での周知 ・注意喚起看板の設置 ・関係機関との情報共有 捕獲した対象鳥獣の適正な ・従事者への周知 ・エゾシカ捕獲後として、施設搬入の推奨
5	同上	同上
6	同上	同上